

「支え合いの人づくり」と「民生委員のサポート」について

20170928

1 趣 旨

地域住民の相談に応じ、その生活課題の解決にあたるとともに、地域全体の福祉増進の担い手として、全国に民生委員が配置されており、奄美市名瀬下方地区にも、14名の民生委員が各地区に配置されています。

民生委員制度が創設されて100年が経過した今日、民生委員の役割は重要性を増し、福祉関係機関との連携等の業務が増大しています。

下方地区においても、一人の民生委員が担当するのは、下方地区平均で約250世帯、人口は約460人に上ります。また、奄美市名瀬地区では核家族化が進み、近所付き合いも希薄化しており、又、個人情報に対する意識が強くなっているために情報を集めることが困難で、民生委員は難しい対応を強いられています。

こうしたことから、民生委員を補助・補完する体制を構築することが、地域の支え合いには不可欠であると考えます。

(民生委員の配置状況と世帯数及び人口)

地区	朝 新 町	朝 仁	浜里町	平松町	小 宿	里	知名瀬	根瀬部	計
民生委員数	3名	1名	3名	3名	1名	1名	1名	1名	14名
世帯数(世帯)	1,103	147	694	690	322	120	251	94	3,421
人 口(人)	2,036	266	1,398	1,451	620	186	357	155	6,469
割 合(世帯)	368	147	231	230	322	120	251	94	244

※「割合」は、世帯数を民生委員数で除し、民生委員一人当たりの担当世帯数を単純に算出したものである。

2 内容(案)

朝仁地区で2年前から実施されている民生委員のサポート活動(朝仁モデル)について、既存の「見守りネットワーク」づくりをベースに制度化し、特定の地区で試行的に実施(地域福祉ネットワーク、福祉協力員の設置)する。

＜朝仁モデル＞

9名の支援員が毎月1回、2名体制で朝仁地区の中の担当区域の要支援・要見守り対象者宅を訪問し、安否確認及び情報収集を行ない、地区民生委員に報告している。

対象地区は、浜里町及び小宿とする。

3 今後の日程(案)

平成29年9月28日・・・下方地区第2層協議体＋高齢者福祉課・福祉政策課打合せ。

平成29年10月下旬・・・対象地区で自治会役員及び民生委員を集めて説明会を開催。

平成29年11月～平成30年3月・・・“地域福祉ネットワーク”づくり。

(参考)

◎ 地域福祉ネットワークについて

地域福祉ネットワーク活動とは、自治会・町内会などの小地域を基盤として、住民の参加と協力により、同じ地域の中で支援が必要な方々の生活を見守り、支え合う活動です。

◎ 福祉協力員について

(1)福祉協力員とは

- ① 福祉協力員とは、自分が住んでいる自治会・町内会を中心に、福祉問題を抱え、支援を必要とする高齢者、障がい者、児童その他の要支援者およびその家族に対して、その人々の立場に立って、地域支えあい活動をしていただく地域福祉の推進者です。
- ② 法令や条例に基づく役職ではありません。民生委員・児童委員又は自治会長の推薦により、奄美市地域支え合い体制づくり事業における下方地区第2層協議体で決定し、下方地区生活支援コーディネーターが委嘱します。
- ③ 手当・報酬はありません。ただし、・・・
- ④ 健康で意欲があり、思いやりのある方であれば、年齢、資格、経験等は問いません。
- ⑤ 活動するにあたっては、要支援者等のプライバシーを守っていただき、個人情報等に関する守秘義務があります。
- ⑥ 任期は2年間です。ただし、再任は妨げません。
- ⑦ 受け持ち範囲は、自分が住んでいる自治会・町内会の約50世帯です。
- ⑧ 活動中の事故等に関しては、ボランティア活動補償制度？で対応します。

(2)福祉協力員の役割

① 福祉問題の早期発見・キャッチ

様々な福祉問題を抱える人やその家族は自らから市役所等に相談できる人は多くありません。他人のお世話になりたくないという意識や、世間体を気にしてしまい、手遅れの状態になってしまうこともあります。そういう福祉問題を周りの人が見つけてあげることが大切です。

自治会・町内会で困っている人に気づいたら、その福祉ニーズを民生委員・児童委員へ連絡してください。福祉協力員は、まず地域住民が抱える福祉問題の発見・キャッチをすることが一番の役割になります。

② 地域での協力者の開拓と近隣住民の助けあい活動の推進

身近な住民の福祉問題を支援するといっても、一人では多くのことはできません。より多くの住民による協力してくれる方をあらかじめ開拓しておくことも必要です。また、ひとり暮らしの高齢者・障がい者の日常のごみ捨てを手伝うなど、近隣の住民で何かボランティア活動をやりたいという人と、ちょっとだけ手助けしてほしい人

を結び付けることも重要な役割です。

③ 当事者の仲間づくり

ひとり暮らしの高齢者や障がい者の中には、話す相手もなく一日中テレビを見て過ごしたり、寂しい思いをしている人がいます。近くの集会所等に気軽に集まり、楽しく、元気になる仲間づくり活動の推進も大切です。また、急病、地震・風水害などの緊急時に対応できる体制を作ることも重要です。

④ 研修会等への参加

福祉制度や福祉サービス等についての情報の収集や研修会に積極的に参加し、知識の向上に努めてください。

(3)福祉協力員の活動のポイント ～気をつけよう8カ条～

① 自分の生活の中に取り入れて

一度に多くのことをせずに、余裕をもって無理はしないようにしましょう。
身のまわりの小さなことからまず手がけましょう。

② 相手の気持ちになって

良かれと思ってやったことが押しつけとなっては、せっかくの活動が無駄になってしまいます。「してあげる」のではなく、たえず相手と平等な立場で活動しましょう。

③ 聞き上手になろう

外に出る機会の少ない人にとって、人が訪問してくるのは、大変うれしいものです。訪ねてきた人にいろいろと聞いてもらいたいものです。聞き上手になってみましょう。

④ 日頃からのつながりを大切に

福祉課題は探しまわって発見するものではありません。日頃のつながりからわかるものです。日頃からのつながりを大切にしましょう。

⑤ 関係者の参加を求めて

福祉課題によっては、地域で解決できる場合もあります。その場合一人で考え、行動するより、関係する人が集まって共に考え、共に行動する方がより良い活動ができます。

⑥ 周囲の人々の理解を

地域住民に活動の理解を得ることが、実りある活動に発展します。

⑦ 約束は守る

活動に際して、約束したことはきちんと守りましょう。

⑧ プライバシー(秘密)を守る

訪問活動では、どうしても家庭内のことが他人の目に触れることになります。人には他人に知られたくないことが数多くあります。活動上で知り得た秘密は、むやみに口外してはいけません。信頼が一番の活動要素です。